



『おすすめ紙芝居400冊 こんな時はこの紙芝居を』

子どもの文化研究所 編
一声社
A5判/201頁
定価 本体2000円(税別)

編集部

本誌2015年10月号「エッセイ」で、かこさとしさんは、紙芝居の原則として「連続・飛躍・完結の流れ」「ことば(文)と画の相補相乗した作品」「上演者と観者の協力支持」の3点をあげておられました。紙芝居と絵本はどちらも絵と文で構成されているので、似たようなものと理解されがちですが、絵本が絵を主体とした本であるのに対し、紙芝居は芝居であり、文化財としての原点に違いがあります。紙芝居は演劇のひとつのジャンルであって、演じるものなのです。演者の技量によってパフォーマンスは大きく異なってきます。

紙芝居を保育現場で効果的に活用するには、対象年齢やどのような場面で演じるのか、十分な検討が必要です。そして、さらに大切なのは、作品選びです。

本書では、ベテランの実演家がお勧めする紙芝居が多数紹介されています。カラー画像つきの内容紹介、演じる際のアドバイスと共に、枚数と実演目安時間が明記されているのも便利です。出版社は10社、多様なジャンル、作者、出版年代、古今東西のお話が紹介されており、実演家が子どもに演じてみた経験をもちよって選書した点が、他書にはない特徴となっています。

本書の葉の中で、紙芝居文化推進協議会の長野ヒデ子会長は「自分で自分にあった紙芝居を自分自身で選んでください」と述べています。本書を参考にしつつ、自分の声、性格、演じ方にあった紙芝居と出会い、演技力をみがきながら、保育のなかに積極的に取り入れていきたいものです。

『うたう』たべる! あそぶ! 12か月の行事のえほん』

新谷尚紀・井裕容子 監修

講談社
B5変型/192頁
定価 本体2200円(税別)

日本の行事には、季節の移ろいを感じる心を養い、災厄を祓い、子どもの健やかな成長を願うという思いが込められています。本書は、行事の由来や季節の歌、子どもと一緒に作れるかんたん料理など、保育園や家族で季節の行事を楽しむための方法を紹介しています。

『ひと目でわかる 基本保育データブック2016』

全国保育士養成協議会 監修
西郷泰之・宮島 清 編集

中央法規
B5判/92頁
定価 本体1200円(税別)

新制度を踏まえ、児童福祉・保育に関する近年の統計データや施策の動向を、図表を中心にわかりやすく示した資料集。保育士をめざすかたや、国家試験のサブテキストとしても使え、児童家庭福祉分野にかかわるすべてのかたに役立つ内容が詰まった1冊です。